

令和 2 年度当初予算編成における調製方針

令和元年 1 1 月 2 8 日

市 長

1 国の動向と地方財政の状況

国においては、『経済税制運営と改革の基本方針 2019』において、雇用・所得環境も大きく改善してきており、地方における経済の好循環の前向きな動きが生まれているとされています。一方で、海外経済において、中国経済の減速等を背景に、通商問題の影響や先行きの不確実性などの影響について留意する必要があるとされています。

経済財政運営では、引き続き厳しい状況にあるものの、経済の再生が財政健全化に貢献し、財政健全化の進展が経済再生の一段の進展に寄与するよう、その好循環を拡大することにより、経済成長の実現と財政健全化の達成を両立させていくことが、我が国の経済が目指すべき最重要目標であるとされています。

地方財政においては、少子高齢化への対応や暮らしの安全・安心の確保などの取組を進めるとともに、自主性・主体性を最大限発揮し、地方創生を推進することにより、持続可能な地方財政を引き継ぐことが重要とされており、国の取組と基調をあわせて歳出の重点化・効率化に取り組むこととされています。

こうした中、国は、地方の安定的な財政運営に必要な一般財源総額について、令和元年度地方財政計画の水準を下まわらないよう実質的な水準を確保するとしております。しかしながら、地方法人課税に係る新たな偏在是正措置や消費税率引上げに係る需要変動対策などが、国の予算編成段階で検討されるほか、海外経済情勢の先行きへの不安など、地方財政を取り巻く環境は不透明な状況にあり、予断を許さない状況となっております。

2 本市財政状況と今後の見通し

歳入においては、合併に伴う普通交付税の合併算定替の優遇措置は令和元年度に終了したことにより、前年度と比較して8千万円程度の減額が見込まれています。少子高齢化による労働力人口の減少や人口規模の縮小に伴い、市税を中心とした一般財源は減少となる見込みです。一般財源の確保にあたっては大変厳しい見通しを持たざるを得ない状況にあります。

また、歳出においては、扶助費などの社会保障関連経費や繰出金については、引き続き増加が見込まれることに加え、公債費については、大型建設事業等の進捗により増加が見込まれます。さらには、公共施設の老朽化対策事業等の実施に伴い、予算編成においては多額の一般財源が不足することが予測されており、基金の取崩し等に頼らざるを得ない財政運営状況にあります。

こうした中であっても、第二次山陽小野田市総合計画で示した基本理念である「住みよい暮らしの創造」の実現に向け、自主財源の確保や経費の節減、歳出の重点化などに努めるとともに、さらに踏み込んだ行財政改革を推進し、歳入規模に見合った歳出構造への転換を早期に図る必要があります。

3 予算編成の基本的な考え方

このような状況を踏まえ、歳入の確保及び歳出の節減に最大限の努力をすることとし、効果的で効率的な事業の在り方について、部内で創意工夫するとともに、事務事業の見直しに努め、これまで以上に「選択と集中」を徹底した上で、予算要求する事業を絞り込んでいただく必要があります。

その上で、令和2年度予算編成における基本的な考え方は以下のとおりとします。

① 基本的な取組

全ての事業の効果や手法等を再点検し、市民との連携・協働、制度や仕組みの改善・創設などあらゆる創意工夫を求めます。

また、各事業については、効率的かつ効果的な実施に努めるとともに、事業のスクラップ・アンド・ビルドの徹底により、所期の目的を達成した事業や成果が上がっていない事業、必要性が低下した事業は、事業全体を検証し、新たな市民ニーズに応える新規事業を実施していくため、廃止や凍結を徹底することを求めます。

事業によっては、経常的経費における財源調整も可とします。

② 重点施策

令和2年度は、「協創によるまちづくり」の理念のもと、第二次山陽小野田市総合計画に掲げるスマイルUPの3本柱（重点プロジェクト）に係る事業及び「スマイルエイジング」に繋がる事業のほか、防災・減災対策に資する事業を優先的に実施していただき、それ以外の事業は現状維持又は縮小を基本として予算要求をしてください。

スマイルUPの3本柱

- I にぎわい・活力・地域資源活用プロジェクト
- II 子育て世代から選ばれるまち推進プロジェクト
- III まちの魅力発信向上プロジェクト